

課題の整理と検討スケジュール

	課題	7年度		8年度		9年度	
		上半期	下半期	上半期	下半期		
① 施設 一体型 小中一貫校	①学校施設整備場所	● 第2回	● 第3回	● 第4回	● 第5回		
	②校区境の見直し に関する事			● 第4回	● 第5回		
	③通学路の安全確保・ 通学方法手段						→
	④教育環境変化への対応						→
② 中学校 校区の 再編	①移行期における 兄弟姉妹への配慮		● 第3回	● 第4回	● 第5回		
	②通学路の安全確保・ 通学方法手段						→
③ 地区 関連	①地区行事の開催 ・2地区での合同開催 ・子ども参加行事への 周知方法						→
④ 其 他	①学童に関する事			● 第4回	● 第5回		

新しい学校の建設に向けた検討

～ 建設までのスケジュールと建設候補地 ～

1 建設までのスケジュール

●小中一貫校設計スケジュール

※建設は令和11年～令和14年

年 度	令和7年度												令和8年度												令和9年度												令和10年度
	計 画 策 定 準 備												基 本 計 画												基 本 設 計												実 施 設 計
整 備 場 所													建築物の設計や建設に関する初期段階で行われる重要な計画で、プロジェクトの全体像を明確にし、設計や施工の方向性を定める基盤となります。												建築物の設計プロセスにおいて、具体的な計画を立てる最初のステップで、建物の全体的な構成や形状、機能、規模などを明確にします。 後続の詳細設計（実施設計）を進めるための土台を構築する役割を持ちます。												
施 設 形 態																																					
屋 内 運 動 場	【令和8年度に向けた準備】 基本計画策定に向け協議会の中で出てきた施設に関する意見や問題点を整理																																				
屋 外 運 動 場																																					
駐 車 場																																					
学 童 保 育																																					
必 要 諸 室													【令和9年度に向けた準備】 基本設計に必要な事項を整理 ・建物の規模に関すること ・建物の配置に関すること 等																								
教 職 員 数																																					
学 年 区 切 り																																					
異学年交流の内容																																					
統 合 検 討 組 織	地 域 別 協 議 会												学 校 別 統 合 準 備 会																								

2 各学校の状況

●藤山小学校

全体敷地面積：17,816㎡
 利用可能面積：15,537㎡

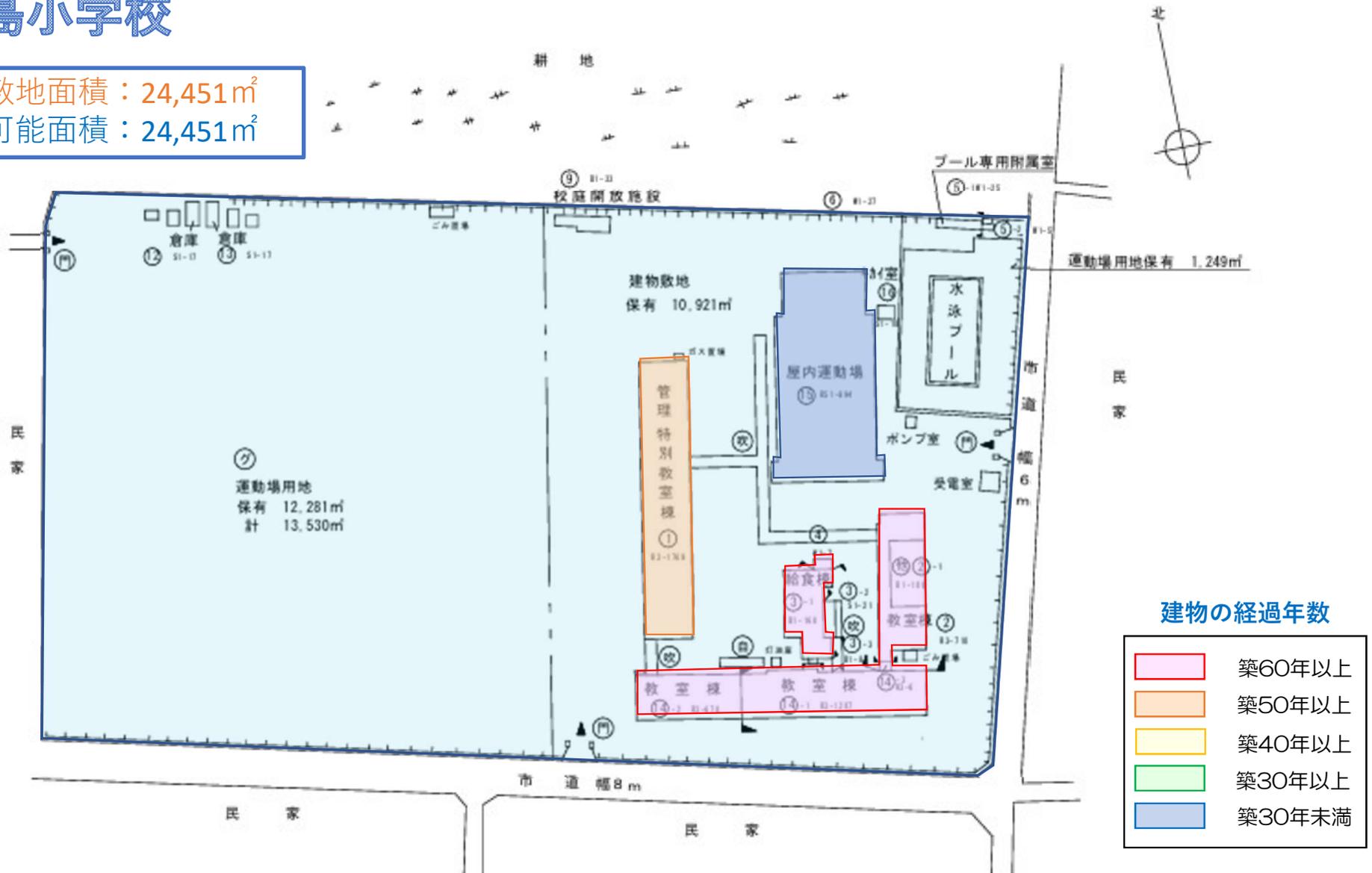
建物の経過年数

	築60年以上
	築50年以上
	築40年以上
	築30年以上
	築30年未満



● 鶺ノ島小学校

全体敷地面積：24,451㎡
 利用可能面積：24,451㎡



●敷地面積の比較

全体敷地	藤山小学校 17,816 ^{m²}	< 6,635 ^{m²}	鵜ノ島小学校 24,451 ^{m²}	< 9,698 ^{m²}	藤山中学校 34,149 ^{m²}
利用可能敷地	藤山小学校 15,537 ^{m²}	< 8,914 ^{m²}	鵜ノ島小学校 24,451 ^{m²}	< 9,438 ^{m²}	藤山中学校 33,889 ^{m²}
建物敷地	藤山小学校 7,277 ^{m²}	< 3,644 ^{m²}	鵜ノ島小学校 10,921 ^{m²}	< 4,963 ^{m²}	藤山中学校 15,884 ^{m²}
運動場敷地	藤山小学校 8,260 ^{m²}	< 5,270 ^{m²}	鵜ノ島小学校 13,530 ^{m²}	< 4,475 ^{m²}	藤山中学校 18,005 ^{m²}

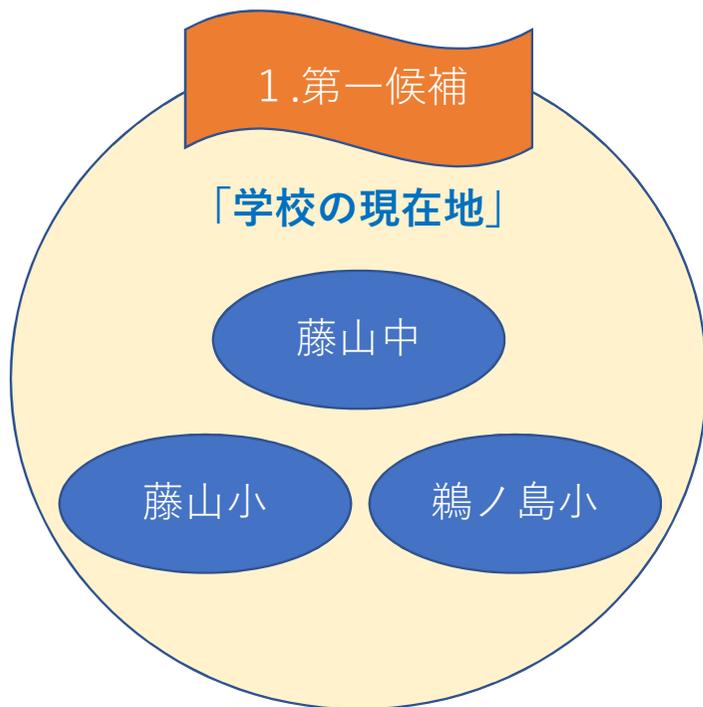
3 建設場所の検討

●建設候補地の整理

宇部市立小中学校 適正規模・適正配置計画より

(5) 適正化に向けた具体的な取組 ③学校の施設整備

1. 中学校の通学区域内のいずれかの学校の現在地を第一候補（基本）
2. 中学校の通学区域内に、より立地条件の良い適当な敷地があれば移転新設も検討



●建設条件の整理

「学校のあるべき姿」の理想形

目標 校区の中心に位置する同一敷地内に小中学校ある義務教育学校

敷 地

(1) 位 置

校区の中心に位置する

(2) 面 積

現在必要な学校施設を整備できる面積

※低学年児童が安心して運動ができるように低学年児童専用の広場等を計画することが重要

(3) 形 状

校舎、体育館等を適切に配置し、有効に利用できるまとまりのある形状
高低差がない使いやすい地形であることが重要

(4) 安全性

様々な自然災害に対し安全であることが重要

(5) 利便性

全体が学びの場であるため、授業や昼休みの移動時間等に配慮することが重要

建 設

(1) 建物計画

各室が機能的な連携を通じそれぞれの機能を十分に発揮することができるよう配置関係に十分配慮して計画

(2) 施工性

校地に接する道路の幅員等を考慮し、工事車両の進入等に支障のない敷地

(3) 学校への影響

整備期間中、児童・生徒の学習や生活に支障がないよう留意することが重要

●建設条件の比較

学 校 名		鵜ノ島小学校		藤山小学校		藤山中学校	
敷 地	位 置	△	・新たな校区の中心からは外れる	○	・新たな校区の中心に位置する	○	・新たな校区の中心に位置する
	面 積	△	・利用可能敷地面積：24,451㎡ 【市内18番目の広さ】	×	利用可能敷地面積：15,537㎡ 【市内31番目の広さ】	○	利用可能敷地面積：33,889㎡ 【市内3番目の広さ】
	形 状	○	・敷地を有効利用できるまとまりのある形状 ・高低差はなくほぼフラット	×	・敷地が不規則で無駄なスペースがある形状 ・高低差が大きい 【前面道路と校舎、運動場】	○	・敷地を有効利用できるまとまりのある形状 ・高低差は少ない 【校舎と運動場の間に段差あり】
	安 全 性	△	・敷地が大雨や高潮による浸水想定区域にあり、被災する可能性がある 【標高：2.5m】	○	・敷地が高い場所にあり、大雨による浸水等の危険性が低い 【標高：10.5m】	△	・敷地が津波や大雨による浸水想定区域にあり、被災する可能性がある 【標高：1.9m】
	利 便 性	△	・校舎とグラウンドの一体的な使用はできるがグラウンドは狭くなる	×	・同一敷地内にグラウンドが確保できない	○	・校舎とグラウンドの一体的な使用ができる
建 設	建物計画	△	・グラウンドに新校舎を建設した後に既設校舎を解体 ・体育館が校舎奥にあるため配置計画が制限される	△	・グラウンドに新校舎を建設した後に既設校舎を解体 ・体育館が校舎奥にあるため配置計画が制限される	△	・バレー、バスケットコート周辺に建設 ・体育館が正門付近にあるため配置計画が制限される
	施 工 性	△	・大型工事車両の通行や杭の搬入において、主要道路から前面道路までの間が狭いため搬入しにくい	×	・大型工事車両の通行や杭の搬入において、前面道路は広いが進入路が狭いため搬入しにくい	○	・大型工事車両の通行や杭の搬入において、全面道路が広く正門も広いため搬入しやすい
	学 校 へ の 影 響	△	・建設時からグラウンドが使用できないため、屋外授業や遊び場が確保できない	△	・建設時からグラウンドが使用できないため、屋外授業や遊び場が確保できない	○	・バレー、バスケットコート周辺に建設すれば建設時も通常通りグラウンドの使用が可能

●教育委員会としての方向性

「学校のあるべき姿」の理想形

目標

校区の中心に位置する同一敷地内に小中学校ある義務教育学校



新しい学校の建設場所については、
藤山中学校区内において、各種条件（位置、面積、形状、
安全性、利便性など）を踏まえ判断した結果、

「**現行の藤山中学校の敷地**」

が最適と判断する。

宇部市立小中学校適正規模・適正配置

藤山中学校区地域協議会だより

第1号

本市では、人口減少社会にあっても、子ども達に安心・安全で、最適な教育環境を提供していくために、昨年11月に「宇部市立小中学校適正規模・適正配置計画」を策定しました。

この計画の実現に向けて、今年度から再編を予定している中学校区に地域協議会を設置して、計画を実現する際の課題の整理と、その対応について協議・調整を行うこととしています。

藤山中学校区においても、地域協議会を設置して、第1回目の会議を5月26日(月)に開催しました。今後、協議内容等については、この協議会だよりで藤山中学校区の皆さんにお知らせしていきます。

第1回 藤山中学校区地域協議会の概要

会長・副会長の選出

- 会長 藤山小学校学校運営協議会会長 佐貫 和巳さん
- 副会長 鶉ノ島小学校学校運営協議会会長 熊谷 直久さん

協議会の位置づけと今後のスケジュール

- ・委員の任期は2年間で、計画を実現する際の課題の整理と、その対応について協議・調整を行っていく役割を担う。
- ・スケジュールとしては、令和7年度・8年度の2年間で、施設一体型小中一貫校の施設整備(整備場所や施設形態)や、中学校の通学区域再編に伴う兄弟姉妹等への配慮事項、学校選択制の整理などが主な協議内容になる。

計画の概要説明

- 小中一貫教育を推進するための通学区域の見直し
鶉ノ島小の児童は、全て藤山中に進学
↳令和9年度入学の生徒(現鶉ノ島小5年生)から順次藤山中に進学になります。
- 適正化の方向性
2小1中(藤山小、鶉ノ島小、藤山中)の施設一体型小中一貫校の設置に合わせて統合を進める。

裏面につづく

■再編スケジュール

	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度
藤山中	地域説明	地域協議 再編準備	中学校区の再編（藤山小・鶯ノ島小）						2小1中 小中一貫校 開校	
藤山小			2小1中 小中一貫校 基本設計	実施設計	施工					
鶯ノ島小			開校準備委員会設置（開校に向けた検討・準備）							
藤山中学校へ進学										

☞ 2小1中の新しい施設一体型小中一貫校（場所は未定）は、令和15年度開校予定です。

主な意見と質疑

■ 主な質疑

質問：新しい小中学校の位置を最初に決めないと、課題の抽出も進まないのでは。

回答：第2回目から、新しい学校施設の場所等についての協議を進めていく。

質問：新しい学校の場所など、協議会で出た案については、決定権はあるのか。

回答：極力、話し合いでの方向性に沿っていくが、最終的には教育委員会で決定することとなる。

■ その他主な意見

- ・就学途中で別の学校に通うことになり、環境が大きく変わるので、子ども達のケアをしっかりお願いしたい。
- ・学校の体育館は、学校関係者以外の利用者も多く新しい学校になっても、これまでと同じ利用ができるようお願いしたい。
- ・新しい学校施設に不登校の児童が戻れる場を設けて欲しい。

委員名簿

分類	鶯ノ島小学校関係			藤山小学校関係			藤山中学校関係		
	所属等	人数	氏名	所属等	人数	氏名	所属等	人数	氏名
地域	鶯ノ島小学校学校運営協議会会長	3名	熊谷 直久	藤山小学校学校運営協議会会長	2名	佐貫 和巳	藤山中学校学校運営協議会会長	1名	藤嶋 敏男
	鶯ノ島小学校学校運営協議会		麻生 都	地域学校協働活動推進員		西田 豊			
	鶯ノ島小学校学校運営協議会		藤田 重治						
保護者	鶯の島地区子ども委員会	3名	石崎 輝正	藤山小学校育成会会長	2名	大藤 三法	藤山中学校育友会会長	1名	福元 寛志
	鶯の島地区母子保健推進委員会		島田 香澄	藤山小学校保護者		河口 恵美			
	未就学児の保護者		松井 圭						
学校	鶯ノ島小学校校長	1名	貴松 光	藤山小学校校長	1名	浦野 ひとみ	藤山中学校校長	1名	野上慎二郎

※第2回の協議会は施設整備等について協議する予定です。（7月16日開催予定）

【発行元】宇部市教育委員会事務局 教育総務課

☎34-8604 mail: ed-soumu@city.ube.yamaguchi.jp

※ 計画や協議内容の詳細は市WEBサイトからご覧いただけます。👉

ウェブ番号 1025530

